

2024年3月期 第3四半期

連結決算の概要



株式会社有沢製作所

2024年2月8日

目次

- 2024年3月期 第3四半期 連結決算
- 2024年3月期 業績予想
- 参考資料

2024年3月期 第3四半期 連結決算



ARISAWA

(百万円)

	23年3月期 3Q(累計) 実績	24年3月期 3Q(累計) 11/9予想	24年3月期 3Q(累計) 実績	前年 同期比	11/9 予想比
売上高	33,543	30,900	30,859	-8.0%	-0.1%
営業利益	2,137	600	648	-69.7%	8.0%
営業利益率	6.4%	1.9%	2.1%	--	--
経常利益	2,705	650	718	-73.5%	10.5%
純利益	2,661	950	981	-63.1%	3.3%
一株利益 (円)	80.52	28.60*	29.64	-63.2%	3.6%
中間配当(円/株)	0.00	20.00	20.00	--	--
為替レート (円/\$) 平均	128.30	138.24	138.24	--	--
期末	132.70	148.00	141.83	--	--

* 9月30日現在の発行済株式数で試算

前年同期比

- ・連結売上高は、産業用構造材料が増加したが、電子材料・ディスプレイ材料が減少し、前年同期比26億84百万円（8.0%）の減収。
- ・営業利益は、売上高の減少およびそれに伴う生産高の減少により同69.7%の減益。
- ・経常利益は、前年同期に比べ為替差益が減少し、同73.5%の減益。
- ・当期純利益は、前年同期に比べ有価証券売却益が減少し、同63.1%の減益。

11/9予想比

- ・売上高は、主に電子材料が2022年下期以降の需要低迷により減少し、予想比41百万円（0.1%）減少。
- ・営業利益は製品ミックスの良化により同8.0%増加。
- ・経常利益は為替差益の増加により同10.5%増加。当期純利益は、上期の有価証券売却益を据え置いたことにより同3.3%増加。

貸借対照表



ARISAWA

(百万円)

	23.3月	23.12月	増減	
(資産の部)				
流動資産	47,420	47,852	432	売掛債権増加 2,985
有形固定資産、無形固定資産	16,690	17,996	1,306	設備投資による
投資有価証券	2,545	2,092	-453	政策保有株式売却による
その他の資産	1,004	1,106	102	
資産合計	67,659	69,046	1,387	
(負債の部)				
流動負債	16,277	18,107	1,830	買掛債務増加 1,711
固定負債	4,275	5,380	1,105	長期借入金増加 1,307
負債合計	20,552	23,487	2,935	
株主資本	44,826	42,219	-2,607	利益剰余金減少 2,670
その他包括利益合計、新株予約権	2,281	3,340	1,059	為替換算調整勘定 1,165
純資産合計	67,659	69,046	1,387	

2024年3月期 第3四半期の前期比増減分析

	売上高 (百万円)			セグメント利益 (百万円)		
	23.3月期 実績	24.3月期 実績	増減	23.3月期 実績	24.3月期 実績	増減
電子材料	21,551	18,402	-3,149	1,268	8	-1,260
FPC用材料 (有沢製作所)	11,887	10,294	-1,593			
FPC用材料 (ThinFlex)	6,957	5,657	-1,300			
ICGC、プリプレグ	1,209	1,175	-34			
プリント配線板 (サトーセン)	1,498	1,276	-222			
産業用構造材料	6,607	7,673	1,066	1,031	890	-141
ハニカムパネル	532	1,425	893			
水処理用FRP製圧力容器	4,153	4,362	209			
その他	1,922	1,886	-36			
電気絶縁材料	1,936	1,894	-42	124	211	87
ディスプレイ材料	3,214	2,625	-589	766	652	-114
関連商品・その他	235	265	30	120	152	32
合計	33,543	30,859	-2,684	3,309	1,913	-1,396
			全社費用	-1,172	-1,265	
			営業利益	2,137	648	-1,489

- ・ 連結売上高は、産業用構造材料が増加したが、電子材料・ディスプレイ材料が減少し、前年同期比26億84百万円（8.0%）の減収。
- ・ 電子材料は、パソコンやスマートフォン、それらに使用される半導体の需要低迷が継続し、売上高は前年同期比16.3%の減収。
- ・ 産業用構造材料は、水処理需要が好調なことと航空機産業が回復し始めたことにより同16.1%の増収。
- ・ ディ스플레이材料は、3D関連材料の新たな顧客への拡販、偏光利用部材の大型案件の立ち上がりが遅れていることにより同18.3%の減収。
- ・ 営業利益は、売上高の減少および需要減少に伴い在庫圧縮を進めたことによる生産高の減少により同69.7%の減益。

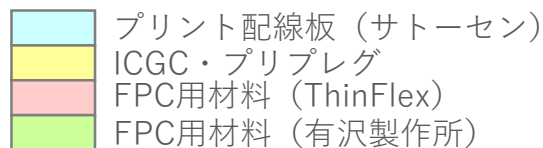
2024年3月期 第3四半期の11月9日予想との増減分析

	売上高 (百万円)			セグメント利益 (百万円)		
	23.3月期 11/9予想	24.3月期 実績	増減	23.3月期 11/9予想	24.3月期 実績	増減
電子材料	18,500	18,402	-98	-50	8	58
FPC用材料 (有沢製作所)	10,250	10,294	44			
FPC用材料 (ThinFlex)	5,750	5,657	-93			
ICGC、プリプレグ	1,200	1,175	-25			
プリント配線板 (サトーセン)	1,300	1,276	-24			
産業用構造材料	7,600	7,673	73	930	890	-40
ハニカムパネル	1,450	1,425	-25			
水処理用FRP製圧力容器	4,400	4,362	-38			
その他	1,750	1,886	136			
電気絶縁材料	1,900	1,894	-6	180	211	31
ディスプレイ材料	2,650	2,625	-25	620	652	32
関連商品・その他	250	265	15	120	152	32
合計	30,900	30,859	-41	1,800	1,913	113
			全社費用	-1,200	-1,265	
			営業利益	600	648	48

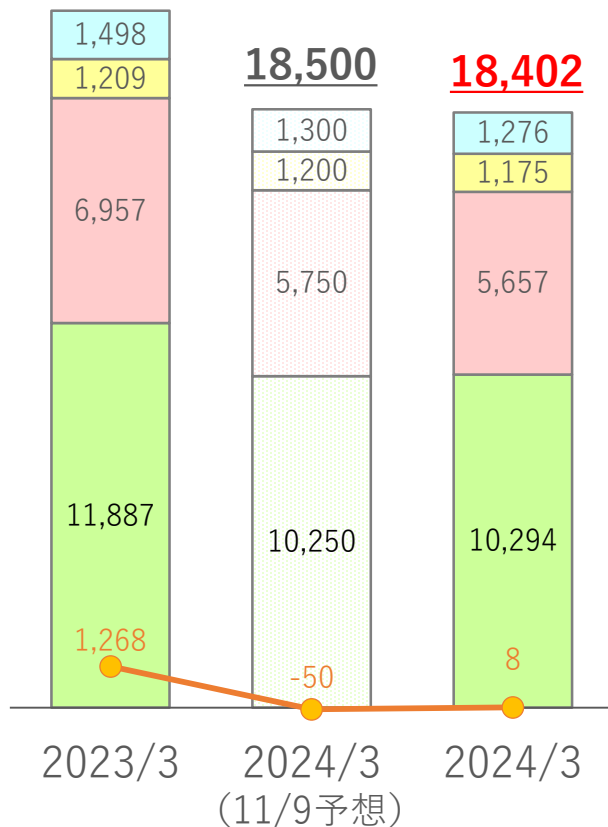
- ・売上高は、ほぼ予想通りに推移し、予想比41百万円 (0.1%) 減少。
- ・電子材料は、中国市場の低迷が引き続きしており予想比0.5%の減少。なお、セグメント利益は製品ミックスの良化などにより予想を上回った。
- ・産業用構造材料でその他の売上高が増加したのは、車載材料が予想比201百万円増加したことによる。

電子材料

売上高 (百万円)



21,551 ● セグメント利益



市場

- ・2022年下期より顕在化した、パソコンやスマートフォン、それらに使用される半導体の需要低迷が継続。足元では底打ちしたと見られるものの、本格的な回復には至っていない。

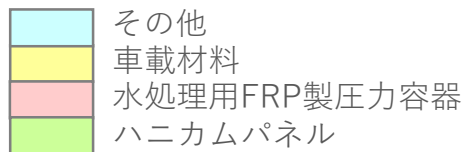
業績 .. 前年同期比

- ・FPC用材料、プリント配線板、ICGC・プリプレグが減少し、前年同期比 31億49百万円 (14.6%) の減収。
 - ・ICGC・プリプレグは、前年同期比2.8%減収。
 - ・FPC用材料(ThinFlex)は、中華系スマートフォンの需要減少により、同18.7%減収。
 - ・FPC用材料(有沢製作所)は、半導体向けの減少などにより、同9.5%減収。
- ・売上高の減少および需要減少に伴い在庫圧縮を進めたことによる生産高の減少により、セグメント利益は同12億60百万円の減益。

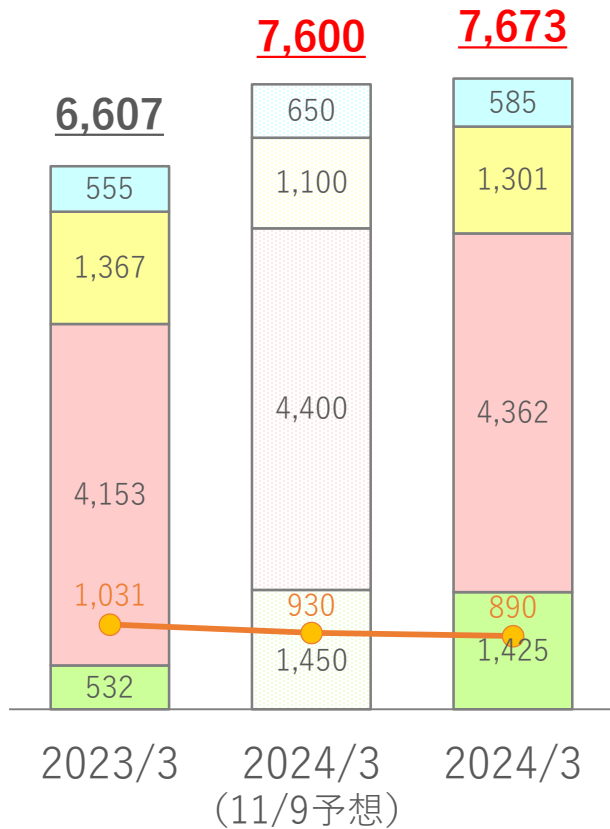
業績 .. 11/9予想比

- ・2022年下期以降の需要低迷がプリプレグ、プリント配線板にも波及し、予想比98百万円 (0.5%) 減少。
- ・売上高は減少したが、製品ミックスの良化により、セグメント利益は同58百万円増加。

産業用構造材料 売上高 (百万円)



● セグメント利益



市場

- ・世界的な水不足を背景に水処理需要が旺盛なほか、コロナ後の経済正常化に伴い航空機産業が回復し始め、航空機用材料の生産も増加基調にある。また、環境負荷低減に向けた新エネルギーの開発も活発化しており、当社においても開発案件が増えている。

業績 ・前年同期比

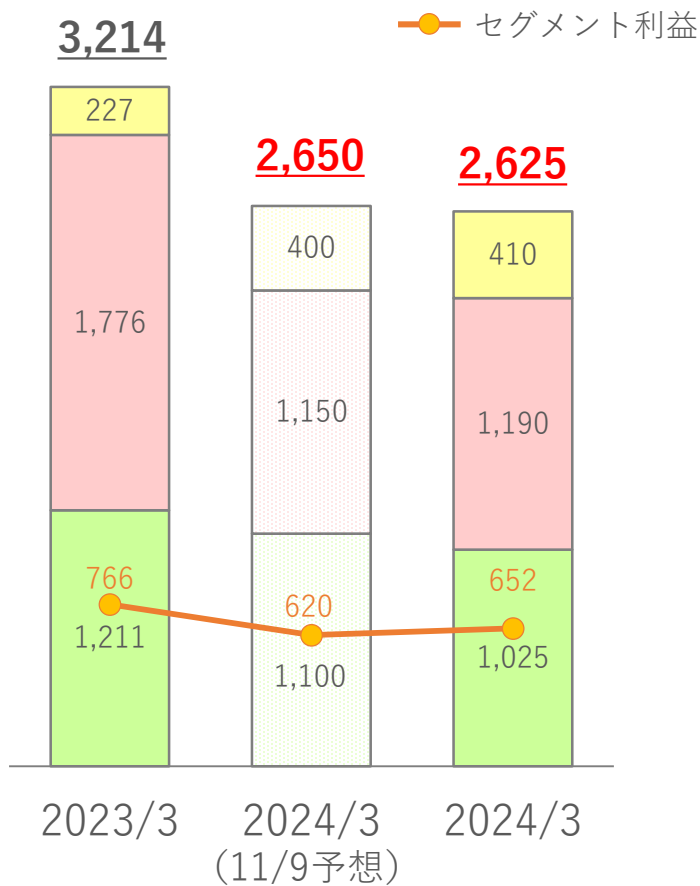
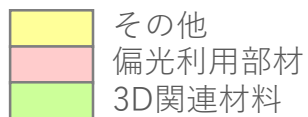
- ・航空機内装用ハニカムパネルは前年同期比167.7%増収。
- ・水処理用FRP製圧力容器は前期に引き続き好調を維持。能力増強、為替の影響などにより同5.0%増収。
- ・車載材料は、自動車生産の混乱が収束し、前年同期比4.8%減収。

業績 ・11/9予想比

- ・ほぼ予想どおりに推移。

2024年3月期 第3四半期の概況 ..ディスプレイ材料

ディスプレイ材料 売上高 (百万円)



市場

- ・ 3D関連材料の新たな顧客への拡販、偏光利用部材の大型案件の立ち上がりが見られ、後ろ倒しとなっている。

業績 ..前年同期比

- ・ 偏光利用部材は前年同期比33.0%減収。
- ・ その他材料は、感圧接着シートの受注が拡大し同80.1%増収。

業績 ..11/9予想比

- ・ ほぼ予想通りに推移。

目次

- 2024年3月期 第3四半期 連結決算
- 2024年3月期 業績予想
- 参考資料

通期連結業績予想



(百万円)

	23年3月期 通期 実績	24年3月期 通期 11/9予想	24年3月期 通期 2/8予想	前年同期 比	11/9予想 比
売上高	42,722	42,600	42,600	-0.3%	0.0%
営業利益	2,228	1,250	1,250	-43.9%	0.0%
営業利益率	5.2%	2.9%	2.9%		
経常利益	2,717	1,250	1,250	-54.0%	0.0%
純利益	2,856	1,350	1,350	-52.7%	0.0%
一株利益 (円)	86.46	40.78*	40.77**	-52.9%	-0.1%
配当金 (円)	90.00	合計 45.00	合計 45.00	--	--
為替レート (円/\$) 平均	131.62	141.00	140.67		
期末	133.53	140.00	142.00	--	--

前年同期比

- ・連結売上高は、主に電子材料が減少し、前期比1億22百万円（0.3%）の減収と予想する。
- ・営業利益は、売上高の減少および需要減少に伴い在庫圧縮を進めたことによる生産高の減少により同43.9%の減益と予想する。
- ・経常利益は、前期に比べ為替差益が減少し、営業利益の減少率を上回る同54.0%の減益。
- ・当期純利益は、前期に比べ有価証券売却益が減少し、同52.7%の減益。

11/9予想比

- ・前回11/9予想を据え置く。

* 9月30日現在の発行済株式数で試算

** 12月31日現在の発行済株式数で試算

2024年3月期 通期予想の前期比増減分析



	売上高 (百万円)			セグメント利益 (百万円)		
	23.3月期 実績	24.3月期 2/8予想	増減	23.3月期 実績	24.3月期 2/8予想	増減
電子材料	26,544	25,300	-1,344	1,224	250	-974
FPC用材料 (有沢製作所)	14,526	13,800	-826			
FPC用材料 (ThinFlex)	8,565	8,000	-565			
ICGC、プリプレグ	1,495	1,800	305			
プリント配線板 (サトーセン)	1,958	1,700	-258			
産業用構造材料	9,128	10,800	1,672	1,315	1,500	185
ハニカムパネル	846	1,850	1,004			
水処理用FRP製圧力容器	5,559	5,900	341			
その他	2,723	3,050	327			
電気絶縁材料	2,582	2,600	18	185	250	65
ディスプレイ材料	4,163	3,600	-563	1,024	750	-274
関連商品・その他	305	300	95	148	200	52
合計	42,722	42,600	-122	3,896	2,950	-946
			全社費用	-1,668	-1,700	
			営業利益	2,228	1,250	-978

市場予想

- ・ 2022年下期より顕在化した、パソコンやスマートフォン、それらに使用される半導体の需要低迷が継続。底打ちはしたものの、回復の動きは鈍い。
- ・ 一方、コロナ後の経済正常化に伴い航空機産業が回復。水処理需要も堅調に推移する。

業績予想

- ・ 売上高は前期比0.3%の減収、営業利益は43.9%の減益と予想する。
- ・ 産業用構造材料は売上増により増益を見込むも、電子材料は中華系スマートフォンの需要低迷、半導体向けの在庫調整により、ディスプレイ材料は売上減により減益と予想する。

2024年3月期 通期 11月9日予想との増減分析



ARISAWA

	売上高 (百万円)			セグメント利益 (百万円)		
	23.3月期 11/9予想	24.3月期 2/8予想	増減	23.3月期 11/9予想	24.3月期 2/8予想	増減
電子材料	25,400	25,300	-100	200	250	50
FPC用材料 (有沢製作所)	13,700	13,800	100			
FPC用材料 (ThinFlex)	8,100	8,000	-100			
ICGC、プリプレグ	1,800	1,800				
プリント配線板 (サトーセン)	1,800	1,700	-100			
産業用構造材料	10,600	10,800	200	1,350	1500	150
ハニカムパネル	2,000	1,850	-150			
水処理用FRP製圧力容器	6,050	5,900	-150			
その他	2,550	3,050	500			
電気絶縁材料	2,600	2,600	0	250	250	0
ディスプレイ材料	3,700	3,600	-100	900	750	-150
関連商品・その他	300	300	0	150	200	50
合計	42,600	42,600	0	2,850	2,950	100
			全社費用	-1,800	-1700	
			営業利益	1,250	1,250	0

業績予想

- ・売上高、営業利益ともに11/9予想を据え置く。
- ・産業用構造材料は、4Qの製品ミックス良化により売上高、利益ともに増加する見込み。
- ・ディスプレイ材料は、売上減少により利益も減少すると予想。

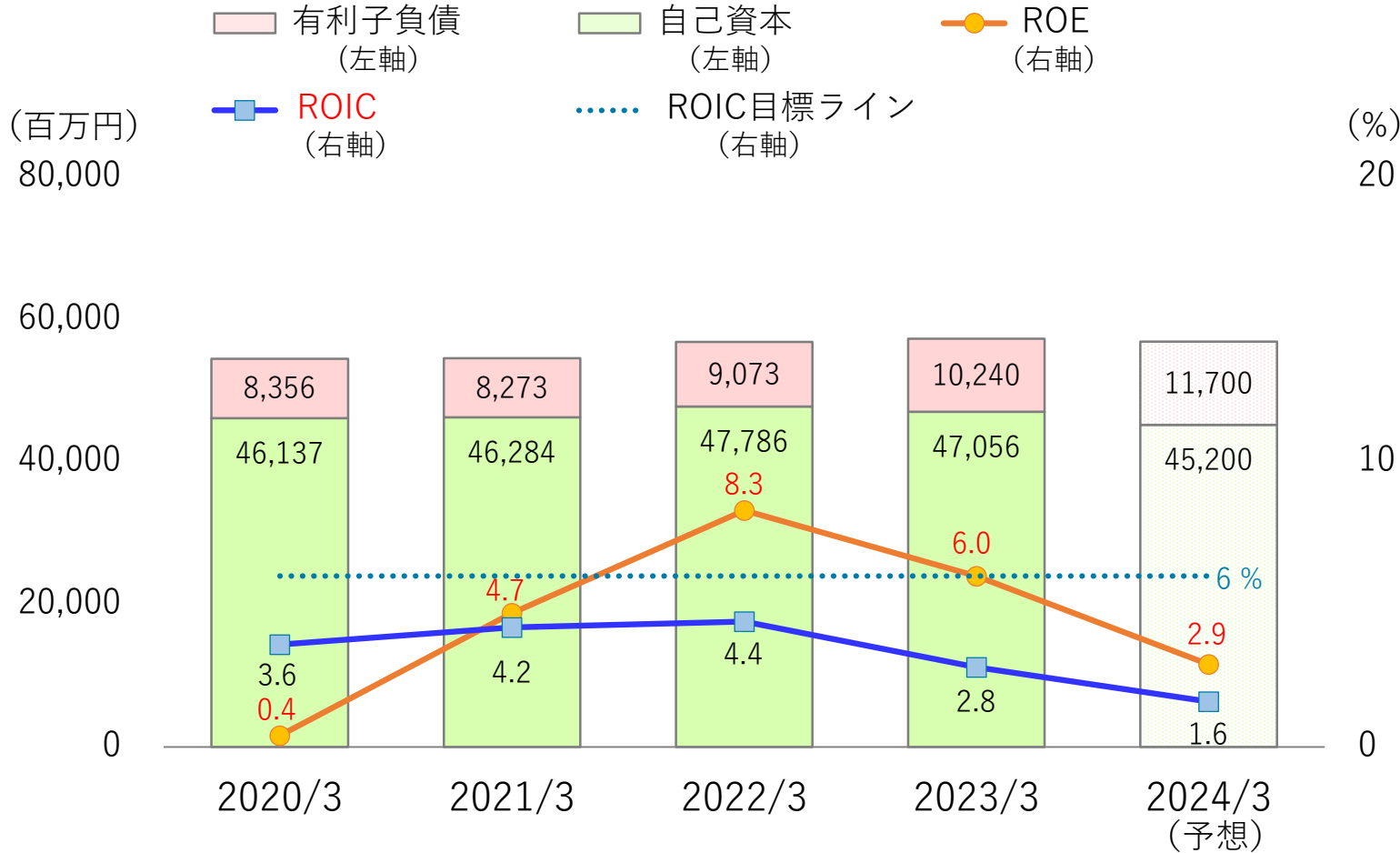


ARISAWA

ROE・ROICの推移

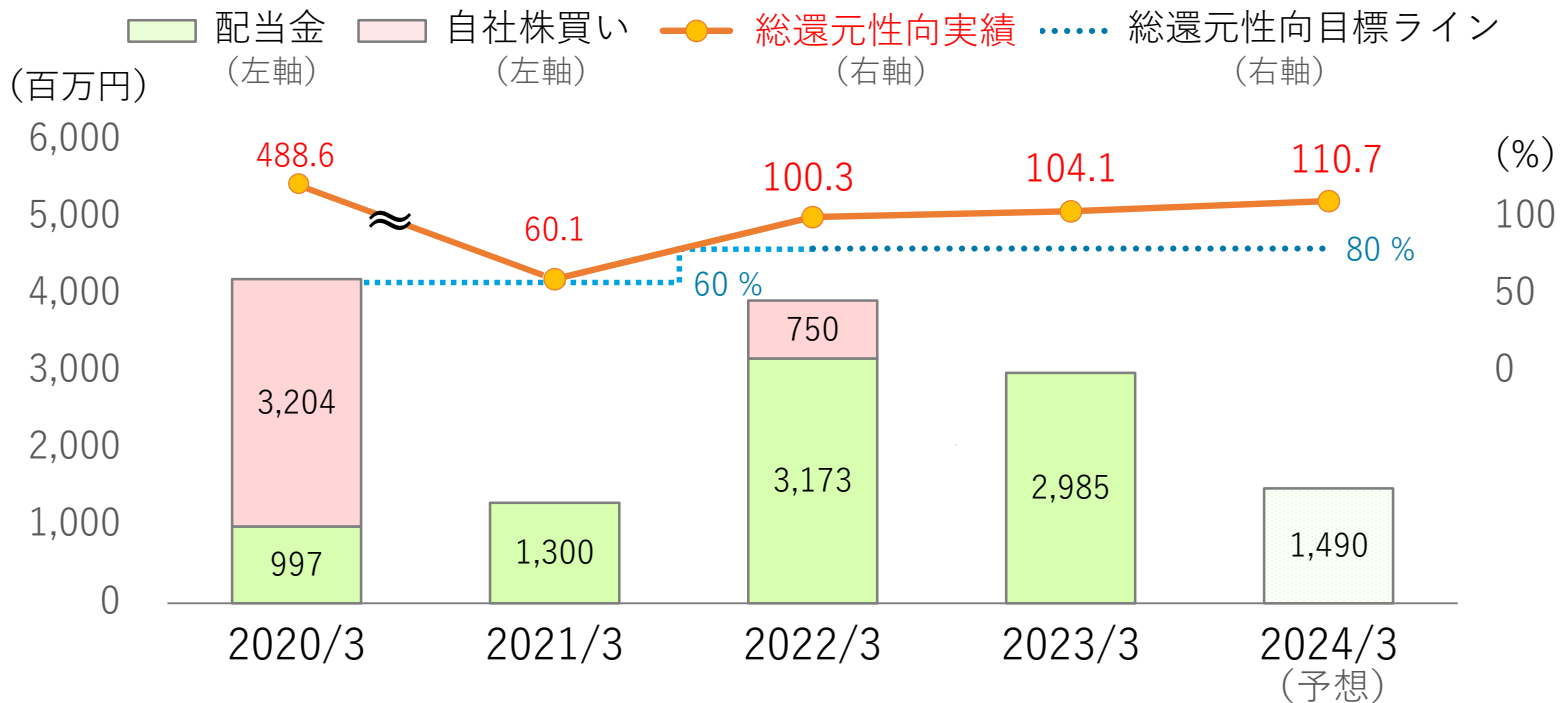
ROE= 当期純利益 / 自己資本

ROIC= 税引き後営業利益 / (自己資本 + 有利子負債)



・2024.3月末のROICは1.6%を見込む。

■ 配当金・総還元性向の推移



・ 配当予想は1株45円を据え置く。
 これにより総還元性向は110.7%となる。

	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3
株価 (円/株) *	802	1,000	957	1,254	—
配当金 (円/株)	30	39	95	90	45 (予想)
配当利回り (%)	3.7	3.9	9.9	7.2	—

* 各年度末の終値

目次

- 2024年3月期 第3四半期 連結決算
- 2024年3月期 業績予想
- 参考資料

■ 会社別 第3四半期業績（前期比・予想比）

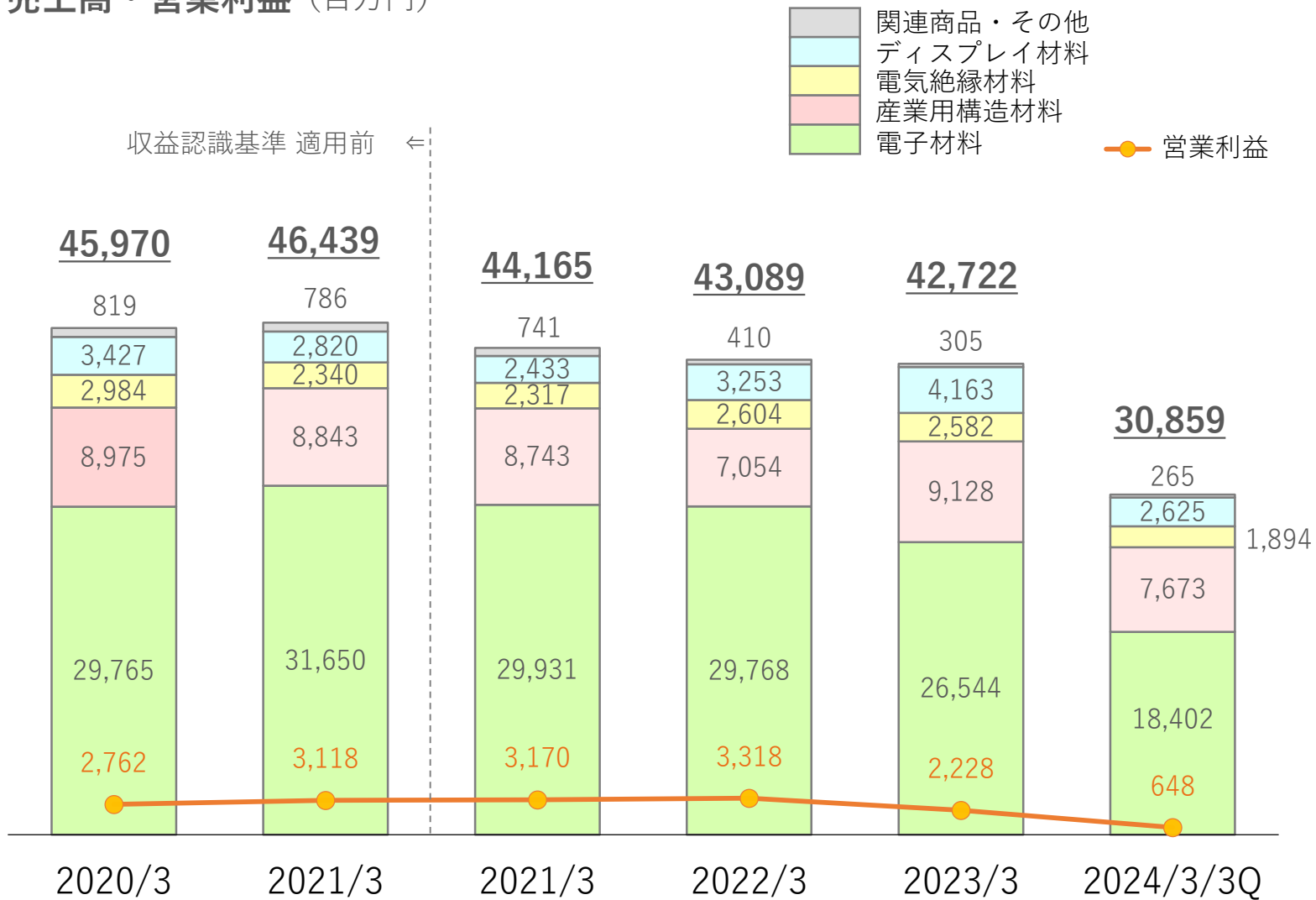


(百万円)

	売上高					営業利益				
	'23.3 実績	'24.3 予想 (11/9)	'24.3 実績	増減 対前期 対予想		'23.3 実績	'24.3 予想 (11/9)	'24.3 実績	増減 対前期 対予想	
単体										
有沢製作所	20,289	19,500	19,735	-554	235	1,182	500	539	-643	39
連結会社										
シンフレックス	7,941	6,100	6,100	-1,841	0	-65	-500	-502	-437	-2
サトーセン	1,498	1,300	1,278	-220	-22	26	10	8	-18	-2
アリスワファイバーグラス	1,343	1,350	1,321	-22	-29	-72	-110	-94	-22	16
プロテック	4,004	4,350	4,355	311	5	800	560	521	-279	-39
有沢総業	1,195	1,300	1,340	145	40	45	70	81	36	11
有沢樹脂工業	184	200	217	33	17	9	30	25	16	-5
カラーリンク・ジャパン	1,803	1,150	1,192	-611	42	239	40	51	-188	11
(連結消去額)	-4,714	-4,350	-4,679			-27	0	19		
合計	33,543	30,900	30,859	-2,684	-41	2,137	600	648	-1,489	48

■ 年度別／分野別の業績推移（売上高・営業利益）

売上高・営業利益（百万円）

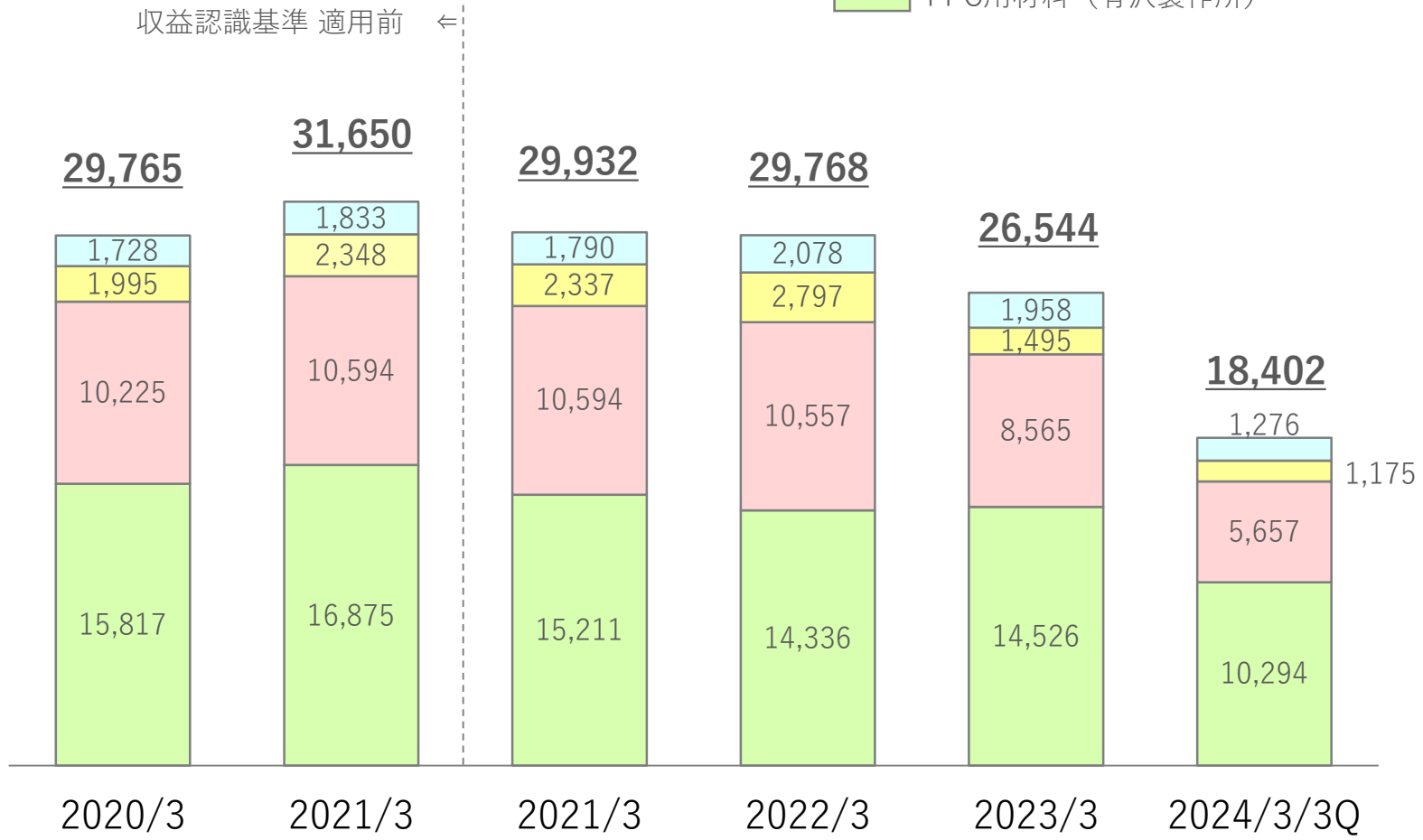
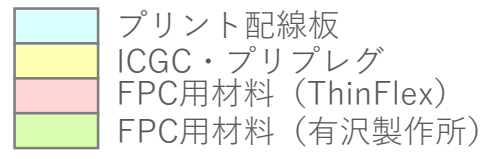


・産業用構造材料は堅調に推移する一方、電子材料は減少傾向が続く。

■ 電子材料の売上推移



売上高 (百万円)



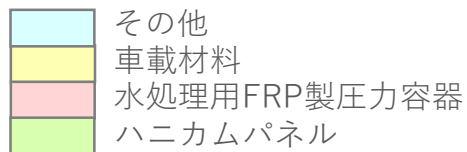
- ・ 2022/3期から収益認識基準を適用。
(参考として2021/3期も遡及適用)
- ・ 2023/3期下期から中国市場向けを中心に需要が減少。足元では底を打ったものの、回復は鈍い状況が続いている。



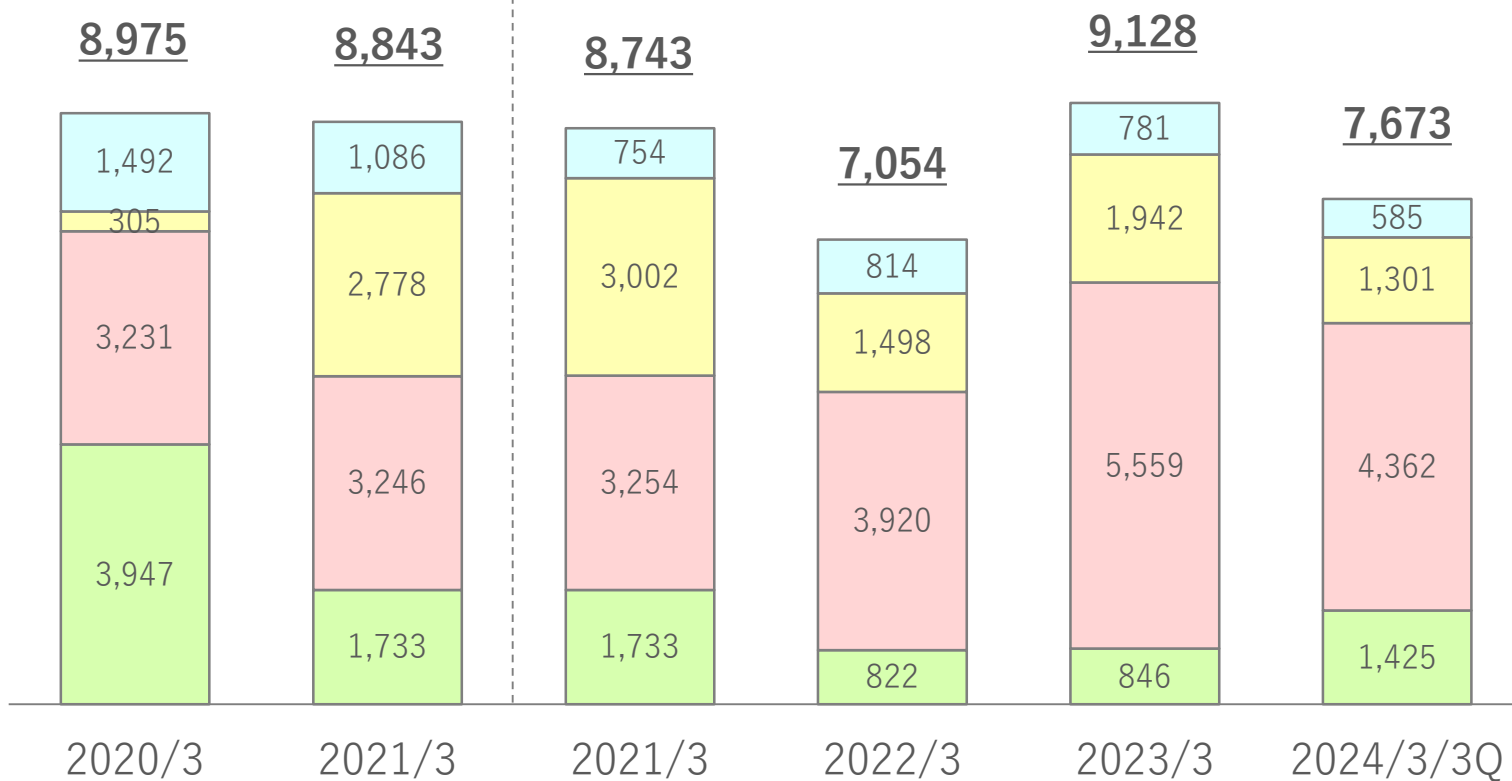
ARISAWA

産業用構造材料の売上推移

売上高 (百万円)



収益認識基準 適用前 ←

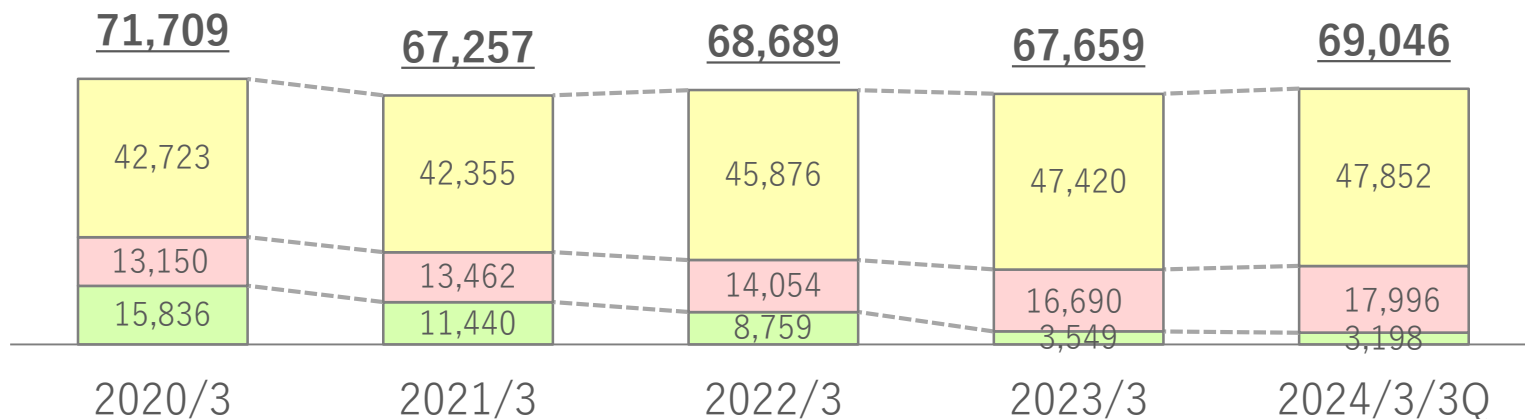


- ・ 2021/3期2Q以降、コロナ禍の影響によりハニカムパネルが減少。2024/3期になり回復しつつある。
- ・ 水処理用FRP製圧力容器は能力増強により2023/3期より増収。

■ 連結貸借対照表（要旨）の推移

資産の部

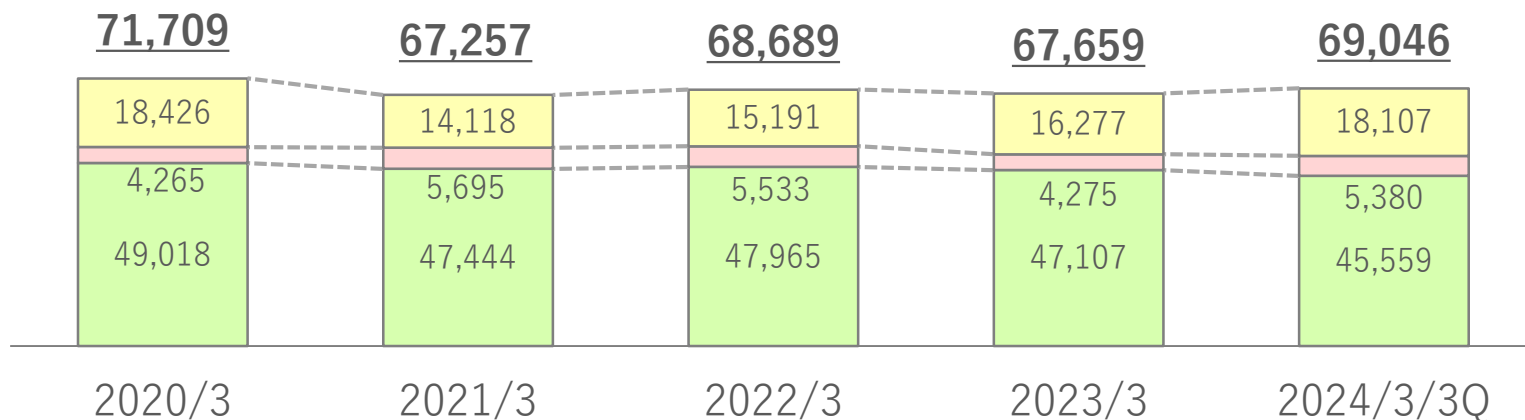
■ 投資・他資産 ■ 固定資産 ■ 流動資産 (百万円)



- ・ 流動資産：売掛債権増加・現預金減少。
- ・ 固定資産：設備投資により増加。
- ・ 投資・他資産：政策保有株式の売却により減少。

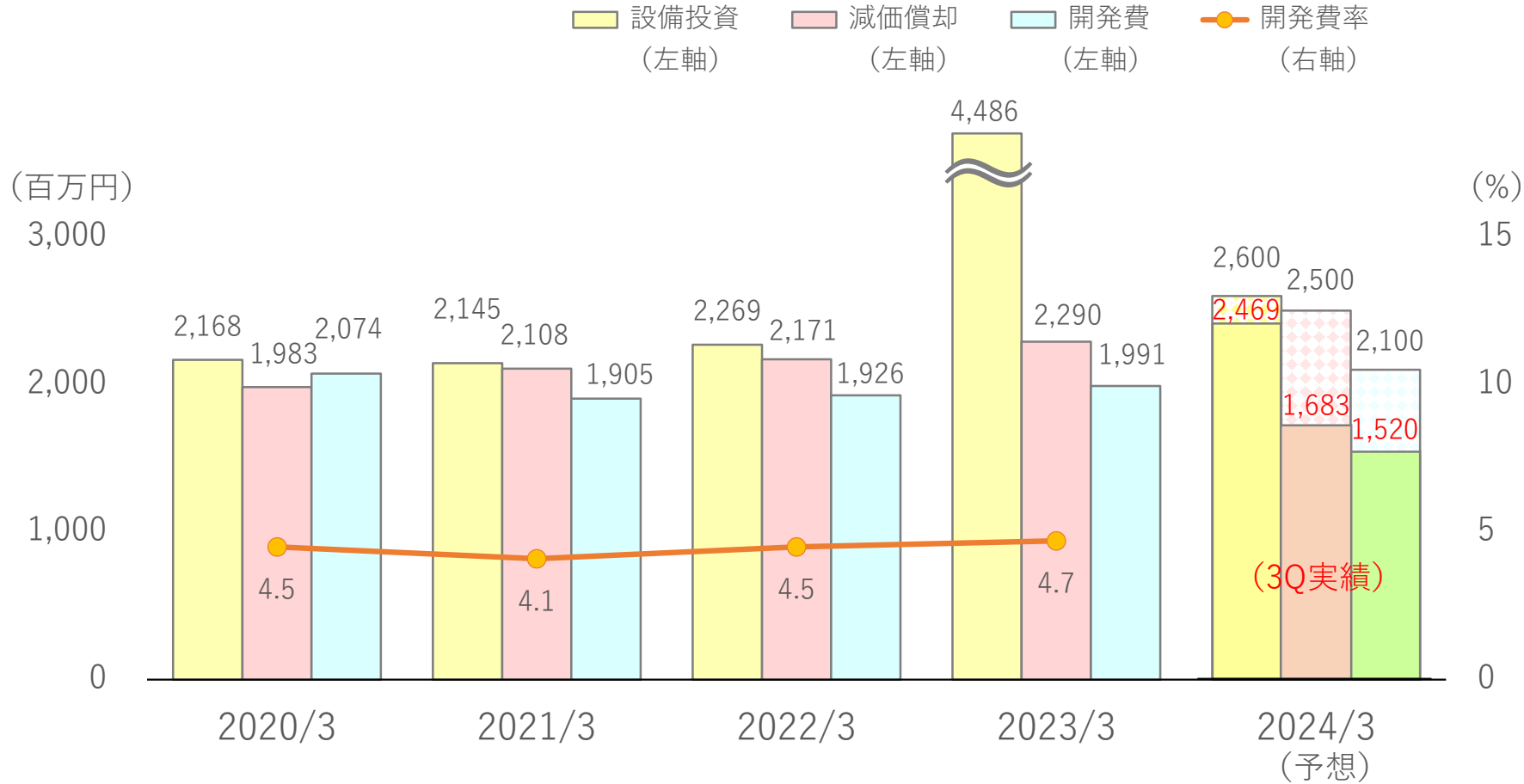
負債・純資産の部

■ 純資産 ■ 固定負債 ■ 流動負債 (百万円)



- ・ 負債合計：買掛債務の増加。
- ・ 純資産：利益剰余金の減少。

■ 設備投資・減価償却費・開発費の推移



- ・ 2023/3以降、中期経営計画に掲げる設備投資を実行中。
- ・ 2024/3期の設備投資は、予定通り進捗している。

本資料は、株式会社有沢製作所（以下当社）による口頭説明によって補完され、かつ、かかる説明との関連性において検討されるべきものです。当社の事前の書面による同意なしに、本資料およびその内容をいかなる目的にも使用することはできなく、また本資料の内容を公表する権利もしくは第三者に開示する権利を付与するものではありません。

本資料に示されている情報は、当社経営陣の予測に基づくもの、あるいは本資料作成時点における実勢および当社の見解に依拠したものであり、予告無しに変更されることがあります。当社は、公の情報源から入手した情報、その他当社の検討した情報が全て正確かつ完全であることを前提に本資料を作成しており、これらの情報について独自の検証は行っておりません。